

八江五林名品圖中

070
45
2911



H2
C

八江秋名河圖画五之卷

目錄秋之部下

龍昌院	同園	妙雲院	心蓮院	蓮華寺
妙香院	妙孝寺	常念寺	同園	波口
二江夜雨	法藏寺	弘法寺	同園	納涼菴
弘法寺川	海潮寺	新橋菴	海潮寺菴	
護念寺	妙性寺	鶴林寺	同園	教安寺
海岸寺	無藏院	幸徳寺	同園	本行寺
保福寺	同園	東山寺	同園	西久寺

江秋名河圖画五之卷

妙元寺 淨國寺 西生寺 万福寺 泉福寺

松嚴寺 住吉神社 同園 同祭禮齋

濱崎渡場園 魚迫場同園 御船藏園

獵人町同園 萩津江基雪 札場齋 諸町盆踊園

龍福寺同園 稱名院 吉祥密院同齋 二株荒神

同園 辨天橋同園 善福寺 天王社 同園

市杵島明神社

以上目錄陸松肆條

八江抜名所圖画五之巻

八江抜名所圖画五之巻

木梨恒充 著述

秋之部下 山深島織 補正

金沙山龍昌院

鍛冶屋町筋にて米屋町の北詰にあり京

師の清淨華院に屬し萩浄家三箇寺の其一にて一派の觸

頭あり本尊阿彌陀如来 五條川邊にあり 惠心僧都の作りて開山

を尊蓮社稱譽是林上人一道大和約と云 聖州龍谷の藤原氏より元和九年に撰す

相傳ふ當寺ハ慶長九年二丸様 見玉二如中御門元良の女室と同慶快物院と云 御卒去

みより一字を御建立ありて同慶寺と号し後寛文四年山口

島山西方寺を改め同慶寺と号し當寺ハ龍昌院殿の御昔

提所とせられて寺号をも改められり

大庫裏 卓臥天を安け 長二尺五寸毎年四月二日物子餅とりしもの執行は是ハ別慶や時代の古字とす

本門 此門は伏見の御皇教の御門を引つらりて世傳を青真門とす

古墳一基 聖光院殿春譽貞芳大姉 寛永六四月廿九日土佐一登殿姫君長州萩廣井文部

妙雲院 同寺の支院あり裏門のうらふあり

和尙といふ 生國ハ雲州ニて八木氏あり 寛永年間ハ草創して大照公命

心蓮院 寛永七年の開基して心蓮社光譽上人良典真

阿の建立あり所あり初大島郡佛性坊といふ古寺を移

て大慈寺と号す後元文の比今の寺号と改む又宝永六年

神谷介右衛門といふ者念願ふりて常念佛を執行せり

慈性山蓮華寺 濟口もち西詰北の角とあり日蓮宗と

て京師妙満寺ニ屬す勝方派あり

本尊釋迦如來 多宝法華經經主 を安し開山ハ日誡聖人と

二ノ上ノ文是經成反

五

大天室 墓石四角

宝琳別來由不分明

寛永六四月廿九日土佐一登殿姫君長州萩廣井文部

同寺の支院あり裏門のうらふあり

生國ハ雲州ニて八木氏あり

寛永七年の開基して心蓮社光譽上人良典真

初大島郡佛性坊といふ古寺を移

龍昌院



龍昌院
山門
講堂
法堂
僧堂
庫裏
浴室
僧寮
伽藍
山門
鐘樓
鼓楼
經藏
法堂
講堂
僧堂
庫裏
浴室
僧寮
伽藍

五



龍昌院
山門
講堂
法堂
僧堂
庫裏
浴室
僧寮
伽藍
山門
鐘樓
鼓楼
經藏
法堂
講堂
僧堂
庫裏
浴室
僧寮
伽藍

三

号す相傳水正八年秀岳公京師ニ在リける時日滅聖人御焔
依ホラウて時々御側ニ召マレ御寵愛淺クシキリテ後御
供ニ連レバハ舊州吉田へ御焔城ありて直ちに一定の精舎
を造リセヨ是を知光坊と号す則仕職す後慶長年中當
所ニ地を賜クテ一寺を建立シ今ノ寺号を賜リクぬ
寺寶 日蓮上人真筆の消息 海書云中山四十五世日近利

華慶山妙香院 同内ウ一ノモチ熊谷町ニあり浄土宗ニシ
テ龍昌院ニ屬す本尊阿彌陀如来ハ慈覺大師の作ニシテ
脇士ハ觀音勢至ナリ當寺ハ慶安四年林小左衛門元重ト

いハツ者建立セシ所ナリといハ元重の祖林三郎左衛門重
寶天正年間ナリ御當家へ屬シ隆景公朝鮮御陣の御供
ニ加リテ後慶長年中吉田ニ住スといハ小左衛門元重とい
ハリ法心ありテ終ニ出家シ圓甫ト法号シテ母の菩提
をとむルハ則華慶山妙香大焔の号をとりテ一の基室を
又結ム林で圓甫を當寺の開山トす
芬陀利華山妙香寺 渡邊口モチウを熊谷町ニあり一向
宗ニシテ光明坊ニ屬す本尊阿彌陀如来ハ安阿弥の作
ニシテ開山ハ大永といハ相傳ハ開山大永といハレ禪宗

の僧より此が三十載の春より真宗は皈依し其の藝州高田
 郡の妙庵をむすび五年より成へて當寺より未り住職せ
 たり是の妙庵寺建立の寛永のちあることとを記すは其の
 長樂山常念寺 不断院と号し煩捺丁筋のちわづら口の角に
 あり京師智恩院に屬す長州鎮西社一派の禪頭よりて菟
 三箇寺のて首より 菟三箇寺のて首より 菟三箇寺の
 本堂本尊阿彌陀如來の慈覺大師の作りて臨士觀音勢
 至の大師師康猶の作り開山の蓮蓮社律普上人西阿天
 和尚の監相傳ふ當寺は中古天文年間古杖に在る阿部藤

兵衛家貞といつる人の同基より家貞入道して法名を常念
 と号すはしめいはいさる草庵とありし西阿大和尚
 といふに佛法を廣めんとして當地へ遷し伽藍を建立し即て
 家貞の法名を以て寺号とほ大より阿部氏の菩提所とみ
 せり其後慶長の初 天樹公御城地を親かんとて萩の
 地へ下向しむむむむ村替らるる當寺に宿りおいて日出度仰
 超哉ありせ玉ふ是より依りて年々寺檀三十石を寄附し玉ひ
 伽藍を新しく莊嚴を極むかる由縁を以て是より後正
 月三毛日の間ハ佛前の勤行を止む是則ち永代の古例と

常念寺



神皇正統記



天竺經

して當寺の規模ありとす其後又渡邊飛騨柱河内繁原肥前

赤川筑後兼重和泉守五人の菩提寺とあり近頃浄光院院 新前
寺 寺考

隆芳院院 口
寺 寺考の両牌を本尊の側方に安置す

本門の元と京師聚樂亭の御裏門を移して移し

建つと云木工師飛騨里甚五郎が作りたるを此門の鴨居に

彫刻して二匹の獅子夜半市中より出て野菜を食ひ荒し

によりて釘も打付けたりと世俗のいひ傳ふ所なり

本堂額 長栄山 佐々木玄龍の筆

寺寶 當麻曼荼羅一幅 惠心僧師の筆 本朝三幅

の一なり元城洲山科の空也院の重宝なりを彼が願願

ふすはく石田宗味と云ふ人是を求めてかたよ未り住居の内

死す其男久兵衛と云ふ父の遺言に依て當寺に寄附せり

云頭は承應の三年なりと傳記に記す

渡口の舟のしほの今の石橋の邊より松平船津への舟渡りあり

依て其名を稱す寛永頃より川の中より洲出きて終つて

上原と号けられしと云ふ貞享元禄頃の絵巻圖に云ふ家

屋並並にあり備へし場今の東屋氏と田中氏の間より

津へ舟のしほのしほのしほと口碑に存せり

二江夜雨。ハコトへ八重と云き八勝のひとつうて同所より

あよりをいへり

護龍山法藏禪寺。弘法寺の馬場末にあり洞家の洋室より

で海潮寺より馬に本尊聖観音の聖徳太子の作なりと大り成

興の護持佛よりソノ開山の義相本師和尚より中興の鉄

酸傳法為和尚より相傳より鉄酸和尚國中一切經の蔵より

慶て防州厚原郡本村觀音寺といへる舊跡を興し慶安年

中當地より再建しと云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

經藏の額西藏の二字は張即之の書なりと云ふ事あり

寄船山弘法寺。阿鉢陀院と号は同所河を隔て洋島よりあり

古義の真言宗にて満願寺より馬に弘法大師の開闢の梵字

よりて大同年中の草創と云ふ中興ハ阿闍梨隆澄より

大師堂本尊の石像は空海の自作なり佛殿本尊は観音より

佛工運慶の作としソノ列年三月廿一日より同宗の僧侶共々

て御影供養を執行す世俗弘法祭といひて老若の貴賤

に羣参すること船麻の如しと七月の廿一日より大施餼

流灌頂を執行す

此日本諸人の事をかたとして記すなりと云ふ事あり

大施餼

大施餼



寺傳曰往古大同年間空海歸朝のみさう海中俄う暴風浪り
 逆浪天をひらき大雨具志らるる降りてどろどろを天ひ
 一ふきの舟此島に漂ひつきたり毛舟中の無難を祝して此島
 二一宿を幸りたるは夜の更ら比夢中ニ純安美虎なり天女
 出現しむい我の乾坤開闢より此島ニ跡を垂まきり地玉辨
 財天女なり汝阿古の蒼海に漂流しり厄難を救くんら
 為の則舟を此島に招きしよりて我とともに密法を承く
 此地よりむへ一庶幾の救世安民の守護とくくめんといひ
 玉ひて即て姿をかかれ玉空海須臾歎稱していづくあそれ

懇ろり靈告く我真言の密法や感通しよん誠し尊ふへ
 きことありしにて即辨檀の木を以て尊像を彫刻しきこ自
 作の石像をもともに此島に安置せしめりさるるをよりにて
 寄船山弘法寺と号しりたりとせ

文殊堂 本堂の西に在る本尊 **日限地藏堂** 別所二向ふ此本尊地
文殊堂の北に在る本尊 蔵の西に在る本尊

浮島辨財天女堂 大船堂より東の空にあり於此の三月七日に
世來八月の日にせり縁起は此堂の女は富河の地

玉神なりて多葉光堂の中心に在る此堂の七尊を救ひ玉は此堂に對
開運光顯文書に七尊を救ひ玉空海傳り著し其傳りて別は法大師密
法を此行なり
と云ふ神あり

十一 文殊堂

弘法寺
後河納涼



馬場

寛政十一年に成る其地は毎月馬市をたて、諸所の馬飼師馬を
引出て賣買せし餘馬の地子も惜馬士の料理茶店等ありてむ暇
ハへりといふ事と明和三年ゆりて芝居真行すありて文化十三年の秋よ
り歌舞伎かゝる人形事との芝居筋屋もともいふ賑業もさうり大
政の十四年よ止められ其の後は
研射も暫古場も遠かたより

弘法寺川

廣大なる流れありて川幅およそ百間ありぬへ

四月のまつことよりハ市中の貴賤夕日よ汗一すいす棹と
さうくに酒肴を携へ橋の前に暑さを洒んとて舟に沙のまぶく
棹さすすてのわり岸ハ舟のまぶくゑるうらふてうつろけ成
て船を鳴らして今様を唱ひ蓋をとりて月を掲まらありて或ハ
高きあらいのやまき長の舞伎高麗のわさをき色ハ波よむい

声ハ空よらんすこのちの貝拾ふ少女ハ千鶴よ立て羅綾の
ちりちりを粧ひ錦繡の裳ハ嵐よ飄て洲沙よ映せり樓船扇
舟とこらせく実ハ船原の第一よと晝夜の差別なり

總源山海潮寺

魚店町より東の角にあり曹洞派の禪園

一て熊州總持寺よ属に慶長年間草創よりて開山ハ

不見妙見大和尚といふ

不見和尚ハ當州三波村の産也源經よりて
九才の時總持寺住職ニ充てられし也

二十より一て相州圓覚入道和尚と稱し一掃葉にてお泊年中本寺十
九世の住職となりはる當地主よりて當寺を開山すれ和のころ源經寺

八十
七

本堂本尊千手觀世音菩薩ハ佛工定朝の作

九十三年申十三日
カサハ定朝の作

十三上代延慶成



海潮寺



海潮寺
海潮寺
海潮寺



海潮寺
海潮寺
海潮寺

腦士文殊勢至普賢三佛工近江の作るうといふ

寺記云曰當寺ハむかし應永年間の創建にて石州湯津湯津

の初め當地ニ由縁ありて先松下市安養寺今廢ニ移し

暫時假堂を設けありしに當地御繩張りとき當所を賜

りて建立に即て今の号ニ改む初ハ錢持寺より輪番の町

ちりしに正徳の比にありて住職を定めしりと云

寺地免簡之寫

長州阿武郡萩越源山海朝禪寺者為同國大津村大靈寺

也連四現住本寺關東直觸門葉支配相願于茲又於三

寺決決之上兩國主命無祖違旨有國老矣戶就津崎六

因語述於品評率於頌例而關東三寺之直觸國內門葉之

支配免許畢向右且嚴守公憲之憲草信據宗門之法文

者也仍免簡如件

正徳己未三月三日

龍徳寺承天印
總宰寺峻廉印
大中寺益州印

石塔

本門の左塔のみをありノカラ石にて碑面は六段八直定極公ニ
東國に殊異宗治大師宛永七年癸卯六月廿七日と刻し

石塔の左塔のみをありノカラ石にて碑面は六段八直定極公ニ
東國に殊異宗治大師宛永七年癸卯六月廿七日と刻し

同一基

左に在り云ノッラ石ニ一と碑面ノ同基七輪廻路高小院
運勝妙慶大姉寛永十八年辛巳十一月九日とありしむ

本門の
社務
夕毛の母と坐劉芳御井入

化珠御結衣又達歩飛衣

本門の
前門
衆善奉行

諸惡莫作

額一枚 慈源山海潮寺

肥前天草東の寺 春林華

長存山護念寺

同所より少し西にあり 浄土宗よりて長壽

寺ニ属す開山の長存大徳大和尚といへり

孤姓の御
井氏あり 當寺は

慶安年中の建立よりて則開山長存の二字を以て山号と

は本尊阿弥陀の三体ハ聖徳太子御作脇士の觀音勢至を

てむりハ本寺の境内ニありとありとと

詔興山妙性寺 長壽寺の裏門ニ對ふ日蓮宗よりて京師

妙満寺ニ属す本尊ハ秘佛よりて深く厨子の内ニ安置

せり脇士の多寶釈迦等あり大永年間ノ草創あり開

基ハ江戸池上本門寺六世日純上人よりて大内家の菩提

所ありと云ふ中興ハ常住院日辰上人と云ふ相傳ふ當寺

備後國尾道ニありて淨雲山詔興寺と号し慶長ノ始
 矢掛公御打入の時日辰和尚を御供よ召されてまづ山口ニ
 遷し遷つ後貴所へ轉じ其頂ハ妙永寺通土頼二井原彦右衛門何品法名妙永とあり
多則寺原ハの置授寺として當地へ遷り奉るより見へたり といへる大地より寺内ニ脇坊
 といへる雨の梵室あり号て圓樂坊聖徳太子を安置す 真如坊ナ利を安
 置に といふあるにいつの頃とらう々廢夫にて今如く去
 かり即ち本尊ハ相堂ニ安置一奉るは明曆の比今の寺
 号ニ改めたりとぞ

寶物一軸當寺ニ世に奉り入奉内の時賜り律師の宣

古より

寛文八年八月二日中納言源通名
 むす持麻原資廣女とあり

番神堂

天孫大神 熊田 諏訪 唐田 荒山 鹿島 北野
 貴船 八幡 加茂 松尾 春日 平野 吉備 大比叡

小比叡

権現 聖真子 八王子 けき 地園 赤山
 三上 徳部 公七 信持 客人 橋前等なり

常樂山鶴林寺

作社のうちちやとあり古義の真言宗にて

満願寺ニ属に舊くハ玉江ニありて白林寺といひしを寛

永のころ今の地に移りて号を改むじ中興ハ法印良順なり

間基詳らるしに

本尊ハ不動明王の如像智經大師の筆日本三幅の一といふ

臨土ハ大珠藤師より私法大師の作なりといふ客殿の額

鶴林寺

教安寺



く佐々木玄龍の筆なり

観音堂

本尊は高輪観音は是れは観音の一尊にて春日より神哥
のついでに西へ流し置られたり此の寺はもとより

靈光山教安寺

同町對ふ角にあり鎮西派の浄土宗にて

常念寺は属は本尊阿彌陀如来は聖徳太子の作にて開山

は性蓮社見奉心樂和向なり相傳ふ元禄元年の建立より

で願主は河野重成といふ人なりといふ

來陽山梅岸寺

同をらして仲の町の北の角にあり鎮西

派の浄土宗にて常念寺は属は本尊阿彌陀の佛工春日

の作にて願主は觀音堂主なり開山の教安寺は五世覺蓮

十の...
...
...

社社啓宇の良間和尙隱居せしうち賞寺を建立しといへり
寛延の頃雷火の爲に焼失して傳記等詳ならず昔の寺
内は一株の梅樹ありて周りに圍にあままりと里老の古傳
ありて呼ぶなり今門内左側に梅の小木あり昔の傳をのこし
太子堂 本堂の左あり本堂の聖徳
太子の御自作の尊像あり

太子堂

東邊四八五ヤ
二場ノ中ノ
一ノ

本
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

瑞光山無藏院 同呼向ふ前より在り嶺西派の浄土宗にて
常念寺に属す本尊阿彌陀の慈心僧都の作り關山ハ心
蓮社玄蕃助給む高き相傳ふ助給ハ心報恩寺の住
職なり一ノ退院一ノ常地一ノ草舎をむむ願心寺と
いへるを關基せるといふ其後阿曾沼因幡といひ一人の
住僧を置り別當寺を菩提所とす一無藏道知といふ法
号の二字を以て寺号とすとて創建ハ寛永十二年より本
堂と傳ふところの額瑞光山の三字ハ東光寺開祖惠極大
和尙の筆なり

稍荷社

本堂の左極
弁寺より向ふ

祭神

八宮御命 六田中命 倉柏理命
大己貴命 神功皇后 以上五尊

曾社の此寺の造り神として又證言し何れか
四月一日二日以上の人事等々其那へり

誓香山本行寺

仲町をちうて河内より東の方を在り日蓮

宗として京師本徳寺尾崎明光寺の両院を為す本尊ハ

南無妙法蓮華經の題目を安置は脇士の釈迦多門天あり

開山の日靈聖人といふ當寺は元和辛向の草創なり初め飯

田町とありて妙福寺といふ後當所へ遷して今の号と改む

開基詳らるゝねと右津と慶安日辛と記しおれハ大いとい

此項と建立しとらるゝへり

言延の寺徳寺

同町の古角にあり曹洞派の禪院として山口

龍福寺と稱す

本堂本尊は釈迦如来脇士の善財童子八歳の像なり開山ハ

石室天竺賢東和尚なり 永のつ 相傳ふ當寺は往昔真言律

宗として享徳年間の開基といふ後元龜の頃宗風を轉し

て湖宗とすといふ江向の地を賜ひて建立す 當寺存もつすの古

地更許し者十棟をうし今江向の地より一上あり其地を 書し江のよむて寺

と稱りて昔記過去帳の類徳夫と詳とらるゝとありといふ

承應元年今の如く再建せり



當山建置志并序左よふこは

什備表外の者
此より開かり

新編 皇朝 紀略

予嘗遊防川阿弥陀院寺之日開山從東坊重源因立鉄塔
安佛舍利并志寺託塔基而刻今五百歲儼然不替予今效
之乃贊此志永以備寺門後繼云々慶安二己丑年四月廿
六日四條承應元春夏宗天再遊室承四丁亥七月五日前
永井復春雲大林第一世見當寺六代普洞正宗三十五世
傳燈沙門雲外深龍峯四十五歳為後繼録者

禪堂

本堂より南すはより本尊造大師の坐像ありて所長八尺あり
格付に「此は西宮宗神人といひしもの作ことし山天月雲電のあり
空の平塔
の字あり

迦藍神佛壇

本尊大権僧理菩薩
右り本堂の傍あり

山門

本尊度地那伽結士の文殊
普賢の二菩薩等と安置は

同願 吉蓮山

黄檗獨立の書とる所あり

壽樂山保福寺

同所東角角あり同家り神宮ありこ海潮寺

は偽なり本尊年辰釈迦如来は安阿弥の作願士の火珠普賢の

相傳ふ當寺はもと防川郡濃郡久米村にあり原始院と

いへば草菴を迂り舟ちりりう後廢に及びこ久しく中絶

を元和六年よりり海潮寺十二世白巖良傳和南當寺を

再興して建立せり時あり

客殿の額壽樂山の三字は俣山の筆あり

三十三 大徳 經 藏 殿



保福寺

保福寺は、
 西暦七世紀に
 創建され、
 聖徳太子の
 御願により
 建立された
 といわれる
 といふ。

保福寺
 西暦七世紀
 創建



保福寺地蔵

七月廿四日の地蔵
 井の塚日蓮寺
 殿の老若群衆
 て衆の衆を
 此日百寺の
 かいり

見寺のあり

粟島明神社

西久寺



西久寺の御堂
西久寺の御堂
西久寺の御堂
西久寺の御堂
西久寺の御堂
西久寺の御堂
西久寺の御堂
西久寺の御堂
西久寺の御堂
西久寺の御堂

禪堂

禪堂の西にあり本尊地藏の所なり石像にして寸長三尺あり
年毎の三月廿四日ハ山中の老若貴賤となく参詣集れ

山縣先生墳墓

禪堂より北の方墳のさへあり
碑面は國南山縣先生之墓とあり

月光山西久寺

新町中の丁南よのかり角より浄土宗にて

常念寺に属し本尊ハ阿弥陀如来にて開山ハ方春西久
大徳より相傳ふ慶長九年春魚棚町々人近藤露竹とい
へるもの開基に依中絶せしり貞享二年に再建す

粟島社 聞譽悦山夢想ふよりて元禄十五年六月廿八日

肥州双田より勸請より所あり

北濱山妙元寺

同所より勸濱寺よりあり一向宗にて京

都興正門跡に属す本尊阿弥陀の聖徳太子の所作の開山
玄可といふ慶安年中の建立なり開山玄可は北條義時の子
裔なりといひ傳へ曰玄可七歳の時より佛門の志ありて
興正門跡の御連枝准圓上人の徒弟となり薙髮して鎌
倉雪の下に住す七條の御袈裟珠數中啓寺を上人より賜
とまり後當所より來りて一字を建立し開基藤井長聖門
といふものゝ法名を以て寺号とす云

祐跡山淨國寺 同所に在り一向宗よりて京都本願寺に属
す本尊ハ阿弥陀如来開山ハ玄春といふ相傳ふるめ藝

州吉田にありて漢國寺といひ慶長のに防州山口へ遷す
のち又當地へ移轉せりと云

靈松山西生寺 姓谷町中程にあり貞宗よりて清光寺に属
す本尊ハ阿弥陀如来開基祐了ハ俗姓三上豊後といふ
ものなり祐了の弟子南順に當所の寺地を賜ふといつ
のひり傳記焼亡して詳らざるは

萬福寺 新町下の丁中程西側にあり一向宗よりて都本願寺
に属す本尊ハ阿弥陀如来開山ハ淨頼なり相傳ふ淨頼俗
姓光井左馬頭といひ初吉田に住し利春の命よりて

雄變一淨願と云ふ法号を賜ひて一字の草菴に居住し

こ水山の末より長年開防州山口に地を賜ふ夫より萩

深野町に遷す後より當所へ轉せりと云ふ

潮寄山泉福寺 濱崎町吹上より一向宗より本願寺に属

す本尊ハ阿弥陀佛開山の玄勝と号し俗姓福間場助政

重の三男藤石衛門政良と云ふ人なり元安永甲乙邑高林

坊に住居すのち同國沼田郡東陽慈惠福寺に住す寛永十

八年當所へ來りて當寺を建立す

養空山松藏寺 新町北の丁東側より西山涼の浄土宗に属

て長壽寺に属す始大津郡久留村に在り安養寺といふを

遷して貞享年中當所へ建營す則余の寺号は改む開山と

云空上人飯山和尚本尊阿弥陀如来ハ惠心僧都の作也

不動堂 本堂の左より、本尊不動

住吉大明神社 濱崎町街舟橋より對ふ萩五社の三つに

神主中津江氏奉祀す

本社祭神ハ長府に在は一宮に同 長府祭神 鹿島祭神

大社大御 清輔、良義が祭神なりこゝに住む神

神地皇后 五津宮御神といふことありて、延喜式に

古の定山といはれ 社記曰む、一承應年間當所濱崎町の町

三年大明神と書に

三

萩五社

人北國明屋松田忠兵衛といへりもの浪華へ登らんとて大
船より真帆引順風よ漕出て既ニ播州の灘を過んとするこゝ
俄に暴風吹起り逆浪天を浸し雨ハ暴なりけりもあけくして恰
も暗夜の如し既ニ船も顛らんとすれども使るべき嶋も見え
たは漕寄る者もあらざれば今ハ神伴の冥助を祈り奉らんとま
づ泉州堺の住宮の誓願をこゝに信心を抽て平安を祈
めよと祈りしに奇異なるうらみ白髪の老翁忽然りて楫
上ニ現れぬやと見しより直ニ浪静りに風治り夕やらの空
青くもとの如くは晴りて漕りしほとに住吉の浦まで

新刊 浪華 巻之五

漕着たる即て神宮に詣り幣を捧げ奉り舟中の無難備
に神助のたまはしむる所ごとかりこみく拜し夫より社司の
家を尋て舟中の危難靈瑞の成感始り終りのころくも
具に物語せんは社司手を打たしきいへらるゝ實に靈妙不思議
甚きこと既に我しを夢の神告を得しう鎮守成長門とい
へりて夢夢中より聞よとこかりしに夢覺ぬけよとさる事あり
おつる即告るうつらんとしてつては物語よと皆奇異の思ひ
をなして信衆衆意らると信心を抽てしる即て社司の
らひ雪國の祈請あり奉る所社よりて海上安全守護の御

三十五 浪華 巻之五

神事始ハ鶴江臺夾森の傍ニ勧請す明府三年當所ニ遷

宮ニ奉ちまはす青雲公所信仰して鈎股拜殿等結構を備へ

奉まつ大門口の地は昔
本所の内より

當社祭禮ハ万治二年ニ始り秋市中の隨一して六月の二十七日

八日元禄年中ハ
八月四日五日里流ニ六月申をもて住吉祭といふその

荒増をいくんも秋市中三十六町の内ニ町元ニ奉り是を半

年祭事設の両町といふ其二町より踊車踊車ハ遠望三年ニ始り
此二町よりなりといふ

一乗ヲを奉出さんとして先六日の初の日より一町の内ニ煮て

設おとくの空地ニ飯屋を圍い舟舞伎芝居の業をさすを朝

夕ニ催す是を細密劇夕演戲といふわとより見物の貴賤群

集ふ云も更ニ十五日より廿一日迄を蔵百といひ廿二日三日を本

習といふ此兩日ハ大木戸を打て切符を以て見物をわすは是町

奉行のうの控ニ大入りせ習より廿七日迄の節多く両町夜店

といひと軒毎ニ提灯を掛け煙籠燭臺敷をちふり所のか

まきり懸りのやきと燈よりも明らけ坐敷の屏風床の掛物

杭香炉のしらまで和漢の書画珍器善美を盡せりまはせ

七日の節の利より二町より十人のりの御客屋にいさう町奉行

の前ニ出て本園本園といふ式あり是ハ奉出ん車の前後

二二二
大正三年八月

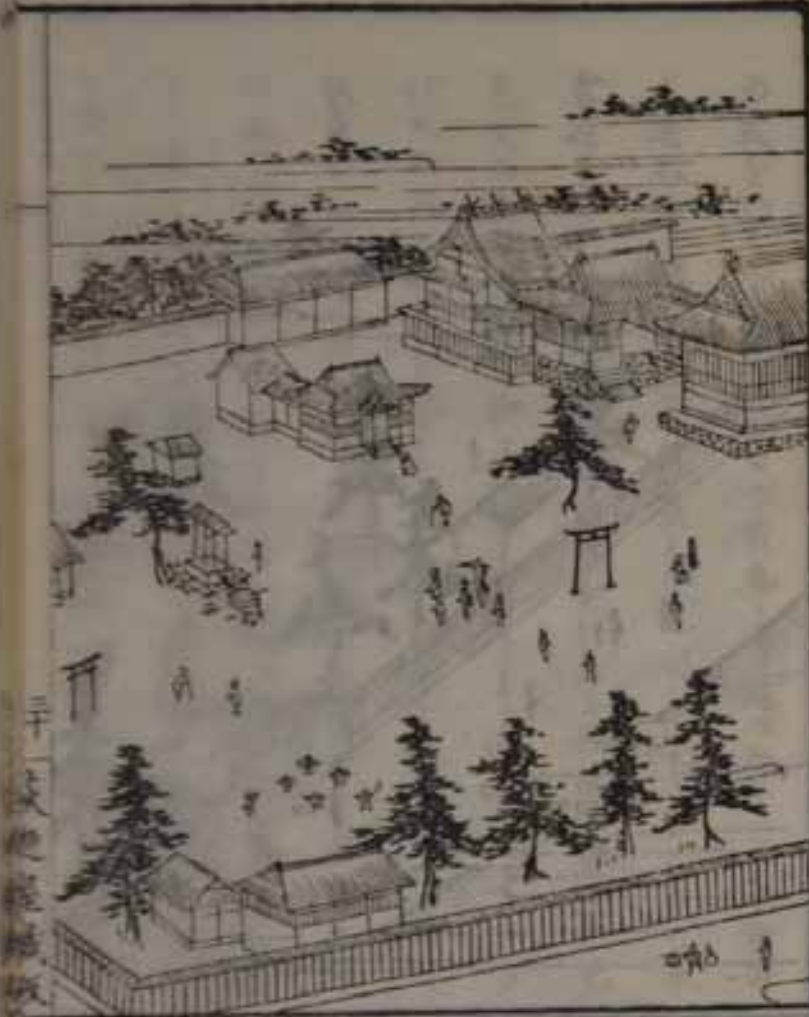
二二二
大正三年八月

を争くんの神ありてあり西町東西より相見合はれてわがまゝ一
 をと事あり中ふら又一人關取と号す其先は進と橋の上
 下は不二の画あるる金地の扇を手に候に扇眼をもち
 弘て今や進ととたせしひぬかて廣基を待しより一帖の
 圖持出たり早に相方どつとりのめきて更よ一二のわさり
 たりまはれし二をとりより方ハいつの間よち己の家よりと帰
 りて音ちふはれり又一の方ハ群りのころて千秋万歳
 一曲を謡ひ先格の通くと家もくつら計りたは時より
 て五出りを田例とす実よ目覺しよりなる風情をまて祭祀



下左
 神社の風景

三
 神社の風景





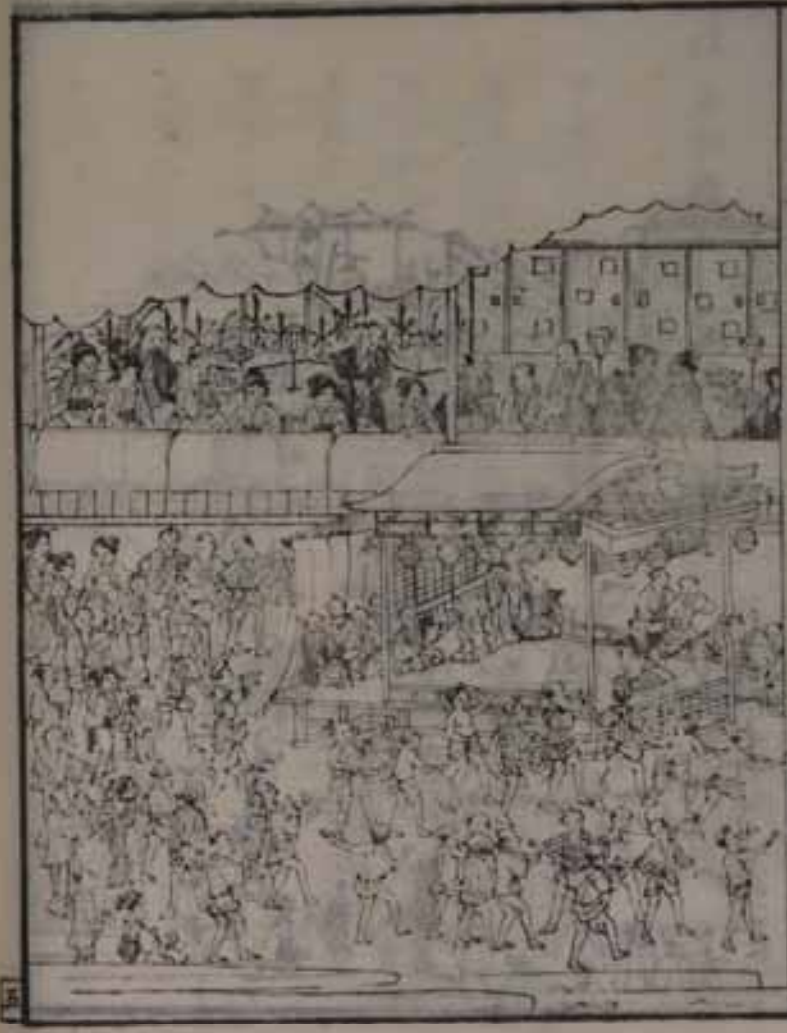
の式をいんんよ九廿七日の黄昏より賑ひひきこりて軒毎
 よ連ねざる提灯の火影は白晝よりりも明らけくかくて夜も東
 雲迎くさりゆくはより向町の車を引北ら相継て聖人の色
 色笠の敷く金の幣獅子拍犬といふらまで道筋を男もきこつ
 ば之御舟ハ鼓具を鳴して走るを専ら神玉の桐傘に
 装束を輝し隨身ハ昔音よりりてをを手袋と神輿御幸
 の誓因ハ概として最重と備ふ此日の詣人見物の貴賤違
 きハ是よりいそは老よりハ杖よりハ杖よりハ杖よりハ杖
 我光より車い出いりちる海里速村よりと難くも連いとせ



住吉祭禮



住吉祭禮



新屋敷

すいて夏に集来す境内廣くとりも尺寸の餘地なく
 酒樽内店ハ軒を連ねて場は赤ち葉子を敷く戸ハ紛然
 とて同断々一誠は社麓の大祭とてをくふべけれ

稲荷社 本社の上と並ぶ雷社の九阿波郡理佐村に在りて万治年中
 の地は此に例祭の四月十六日此日未信人七脚具す所、節を

わけ舟舞は人形を掛け是を造りとのこと

英社 裏門の上とあり七通所新のより
 美人信所の一とて雷社内へ比す

宵物 槍馬一校 青雲公御寄進 同一枚 春根公御寄進

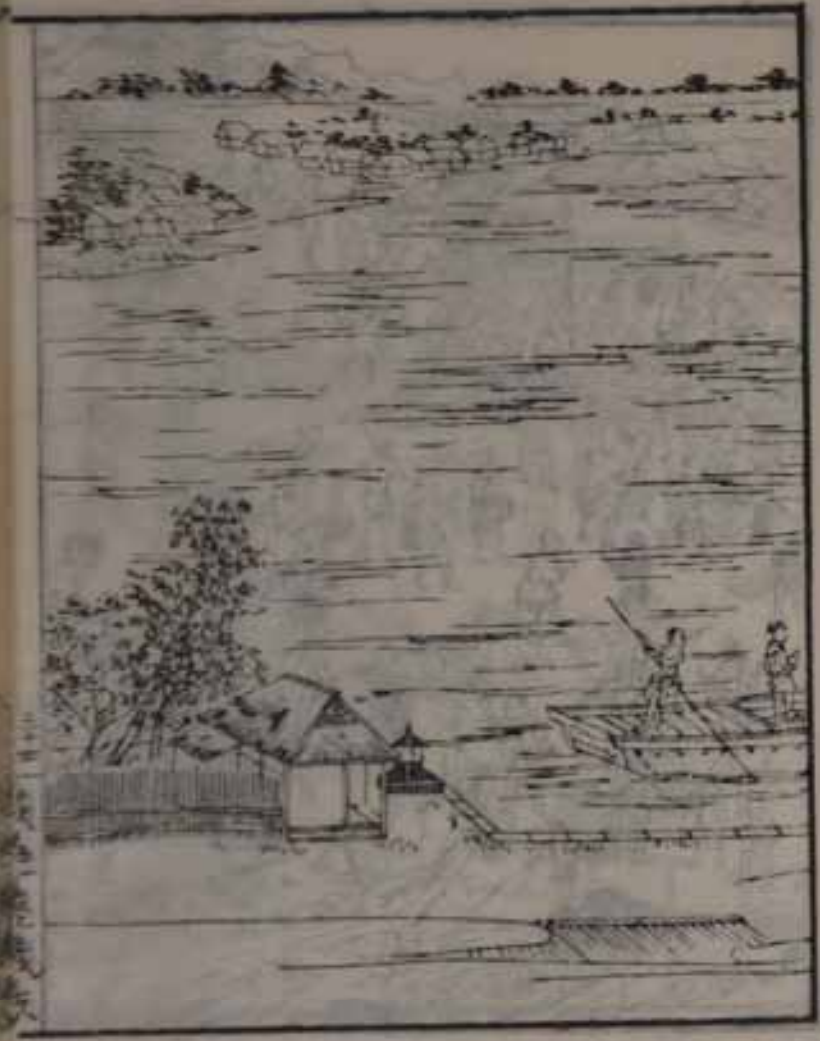
具足一領 島田氏
 寄進

棟札等 萬治元九月吉良運舟主等共運誌為

裏 慶長大御王 北田忠兵衛

前門 慶長御持中

三十一 新屋敷



濱崎渡場

新編
浮城物語

魚市
魚運場





御船蔵



御船蔵



大坂
御堂
本町
一丁目

獵人町
廿六夜侍



大坂
御堂
本町
二丁目

濱崎 松本大川の末をいふ萩市中への商船運送の港なりて

出入の船日毎に群へり所なりまて濱崎町の酒屋肴屋米屋
材木屋其外諸國買舟諸郡飛脚等 此處に住居する所也

渡場 同所在り世に鶴江の渡 ほとりひるくてももも

濱崎渡一舟場は御番所所高札等を建置れり

魚迫場 同所在り此地は遠近の津より鮮魚を運漕して

日毎に魚の市を立て四時一日も飽ゆることなし大なるを
鯨をくしめ小なるは白魚をいづるも持かてふのりまふく
利潤の高下を幸ふ舟に撒いて煮る

獵人町廿六夜 七月廿六日の夜二十六夜といひて獵人町新町

邊に家々基は瓦葺を構へ阿弥陀佛を置きこゝ釘打た
き念佛念ふなりて終に夜を徹す市中は貴賤タラしより
出て賑もよこさるるなり

萩津江暮雪 古八景の一にて渡場の所をいふ

札場 東田町にて唐櫃と新道にそりり所あり富所を

御両國中八達里敷の始りて御高札を建おられり昔
に南片河町の所を御場の端はありといふなり享保二
年上原新道出来の節富所へうつされりとも



諸町盆踊

七月十六日の夜より盆踊くて夜更しく諸町こ
て少きも長しとも男女おまじりておのり様々も悦び踊り
を習と申見物の上下老若お集ひて夜のおろるをりわい
ゆる鳥の音は訪くはて漸く踊りどる

龍福寺 古義の真言律宗にて防府官市園か寺に属し
開山の鑑海和尚なる木尊ハ十一面観音脇士の毘沙門
天吉祥天の當寺ハ其雲公の思居ありて秋市中に真言
律宗をまじり新上園か寺復僧鑑海を居させ堂宇河
建立あり道場なり明和五年に寺号を賜ひ天明に

くろくで落成すと云

聖天堂 天神社

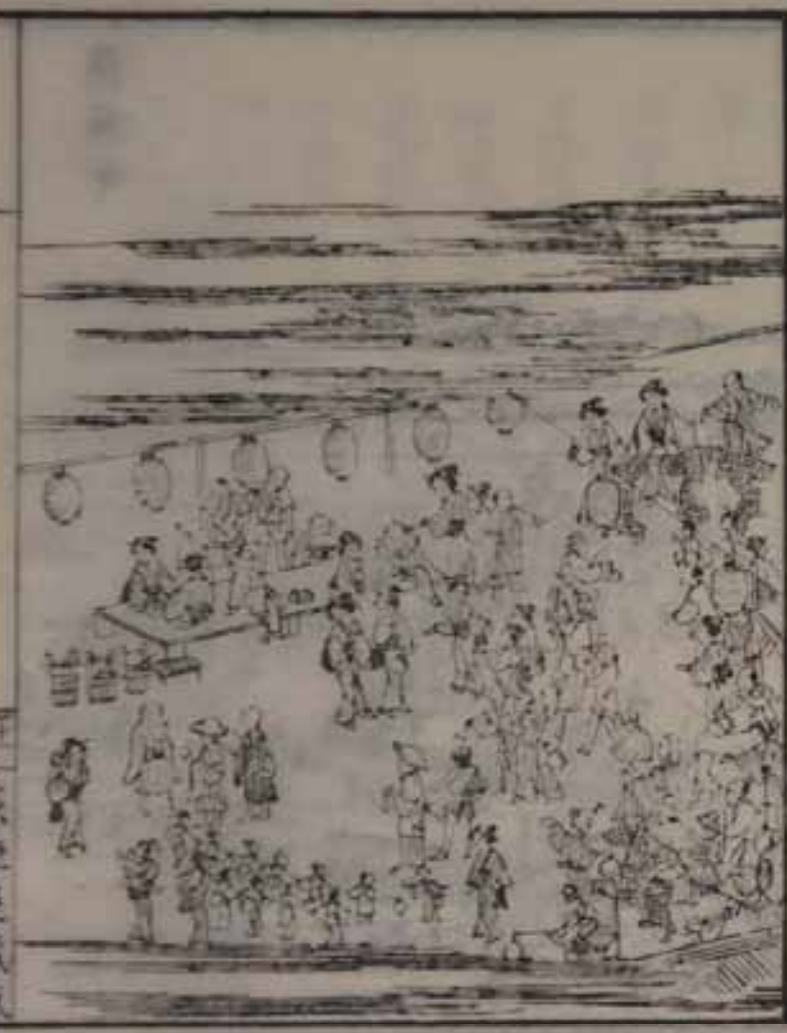
寶物 鎌倉惟五郎景政の太刀一振 弘法大師の書

巨漢山稱名院 同所の東にあり淨土宗にて當寺寺に屬
す開山の常念寺十世長譽求公和尚元禄六年の所創なり
木高河其建まるとく本尊ハ阿妹陀騰立の觀音勢至なり
寺地ハ元秋里式律まことなり

十王堂 開闢法王 宗門の作
百明建立

寶塚山神宮寺吉祥密院 御許町中程東側にあり古義の長

早 一 漢地 延慶 庚辰



酒
屋



諸
町

大
道



甲三
長崎一景



龍福寺

長崎一景

言律宗一して満願寺に属す開山の良盛法印より佛眼
尊尼沙門天の尊像の一の坂銀山より掘出す所の金依
仏工運慶の作或は昆骨
開元の作と云ふべし
の本尊よりといふ

本堂本尊子安觀世音菩薩の聖徳太子御作り相傳
ふ當寺は往古石州銀山とありて藥師寺といふ古刹あり
り慶長年間防州一の坂銀山出来の時御祈願行として
彼地は遷されたり別号を神宮寺と改む元和以来銀山廢
類よおして秋上轉に初め惠比須所之地を賜ふ彼ま

當所の再建すこと

觀音緣起のありきを載す

石州銀山出現の大慈大悲の尊像浮屠の僧と化し藥
師寺六世の住中興光盛阿闍梨は告け玉く我日此
婦女の産苦を拜む依て貴僧に易産の符を授くべし
かかるとに邑里の婦人よ與へるといひ捨て去り玉ふ夫よ
り近郷の人民信こそれは其功著りしをけを愛敬子安
觀音と稱し奉る

吉祥院

世に子安観音
と称す



二森荒神社 茶の末原より田畑に承る前にあり當地を

号けて二森といふ社司吉屋氏奉祀す吉屋氏の昔春日社
の大宮司よりくどり其のついでて今も文書を傳ふ又

大内家判物等もあり慶長十二年迄ハ春日社主職なり

一由云傳ふ例祭ハ九月十日なり

昔ハ下土原波戸場井原氏ア井原氏下屋敷の内ニあり

て鎮守妙見社と相殿ありいふとありて社を分て當所

へ遷坐に依て二森といふ名あり

稻荷社

本社の名こり、祭神は瓊杵杵尊
を祖祀す、真依神の三座なり

辨天橋



辨天橋

二森荒神社



解之



水原以成
秋風吹
秋之小入
水原以成
秋風吹
秋之小入
水原以成
秋風吹
秋之小入

天長元年

辨天橋

八丁をちよて東へゆくつめ所あり

辨天橋あり八丁川と云

むらゝ當可よ遠良と云ふ尼の菴室あり彼ら法号を以ひ謬て心てんとしひ傳ふこと

正法橋なりと歴然なりいと云ふ

都て家名をとりて可の名と云ふいと多し然れども辨天

指月山喜福寺 川島あり臨濟派の古刹にて秋五箇

寺の一なりと云ふ昔河派の禪宗なりと云中比宗風を

轉て今天樹院と稱す昔々都東橋寺の末流なりと云

開小前住建長翔天源臨和尚にて中興の真如柱本元南和尚なり

本尊釈迦如来の安阿蘇の作とのみ相傳ふ當寺の水亭

五

天三社



天三社

年開ら竹創らり大内家代との菩提の寺に利物寺

を存せりいづへ指月山の麓にあり 山城山を北ゆふよ

此山号を稱す御城運營の時當地を指ひて創りて以

地藏堂

此堂の古くは山本寺地蔵堂の舊の作
りて大内家の身業なりと云

大内家判物

その不仕武部新法清備

由を了地事本全寄附

香酒をやら早可寺坊

丁所抄件

天文八年二月

大内家判

天王塚

八溼懸像一桶 元ノ懸像

天王社 川島の東詰土手の上帯虹彎を望みて南に向ふ

市村島大明神社 橋本大橋の東川島の土手あり川を

望みて南に向ふ

祭神 市村島姫 勧請年月詳るべし例祭ハ六月 日

あり

八江菰名所圖画卷五終

...





秋市立秋図書館



111524294

